

山形県立村山産業高等学校の「課題研究」に参加しました

令和4年6月14日(火)に、山形県村山市の山形県立村山産業高等学校で、山形森林管理署の五十嵐伸哉地域林政調整官と桑原沙月主事が、当署が取り組んでいるアオモリドマツの再生等について講義を行いました。

同校農業環境科・みどり活用科では、3年生12名のうち8名が緑地保全コースの森林・林産物のカリキュラムを学習する傍ら、課題研究に取り組んでおり、そのうち3名の生徒さんが、蔵王でアオモリドマツが枯れていることについて調査しています。その一環として、今般、森林管理署に、被害の経緯や現状、再生活動の状況等についての講義の依頼があったものです。

3名の生徒さんからは、事前に日頃の課題研究で感じていた疑問についての質問が寄せられ、同校の卒業生でもある五十嵐調整官も熱心に応じていました。講義の終わりには代表の生徒さんから丁寧なお礼の言葉を頂戴しました。

課題研究では、今後、地球環境問題も視野に入れながら、研究者を訪ねてさらに学習を続けるそうです。若い世代の方が、当署の取組に関心を寄せていただいたことは大変に心強く、今後ともアオモリドマツ再生に努めていく元気をいただきました。蔵王のアオモリドマツが大きな被害を受けてしまったことは残念ですが、このことをきっかけとして、一人でも多くの生徒さんが、森林管理局署はもとより、森林・林業・木材産業等の分野を進路として選択してくださることを願ってやみません。

